

Leading center for the development and research of cancer medicine

ニュースレター

10/21 (水)

講演会

「がん教育を進めるにあたって」を開催しました



順天堂大学大学院 医学研究科 臨床腫瘍学

教授 加藤 俊介

去る10月21日「がん教育を進めるにあたって」と題したシンポジウムおよびパネルディスカッションを行ないましたのでご報告いたします。

健康、命の大切さを考えていく上で、死因の第1位であり3人に1人ががんで亡くなる現状を考えると、国民に対する正しいがんの知識教育・普及啓発活動は重要であり、こどもからのがん教育の必要性は第2期がん対策基本推進計画にも掲げられています。しかし正しい知識の普及においては専門的医療従事者の関わりも必要不可欠であることから、平成19年度から積み上げてきた我々のがんプロ実績をどのような形で現場や社会に開かれた形で有効活用いただけるか意見交換の機会として今回のシンポジウムを企画いたしました。

当日は遅い時間にもかかわらず、文京区教育委員会教育指導課指導主事の山岸 健先生、文京区立明化小学校の井上 光広先生、順天堂大学スポーツ健康科学研究科から長登 健先生、采女 智津江先生、さらには文京区の小中学校の先生方や一般の方々総勢90名の参加に加え、がんプロ参加7大学をICTで結び、予定時間を越えた活発な意見交換がなされました。

子供たちとの距離が近いのは現場の先生方ではありますが、がん教育に伴う新たなご負担を考えると、私

ちがプロが果たすべき役割はとて大きいものと考えます。さらに、患者さんのような医療の受け手側、患者を支えるピアサポート活動などに携わる人々の協力も必要不可欠ですし、実際にがんにかかった家族を持つ子供たちを支える周囲の人々の関わりも欠かせません。子供たちを囲む社会に属する皆がそれぞれの役割立場を果たしていくことで、中身を伴う「がん教育」が目指せることを強く感じました。

ご参加いただきました皆様方には心より御礼申し上げますとともに、今後の私たちの活動にもご興味、参画いただけますようお願い申し上げます。





がん教育を進めるにあたって

パネルディスカッション報告

文京区立明化小学校 副校長 井上 光広

panelist

「がん教育に関する講演会」に参加して

今回の「がん教育に関する講演会」に参加するにあたり、がん教育について学び直した上で壇上に立たせていただきました。がんを学ぶことは命を学ぶことであり、それはまた生き方を学ぶことであると改めて感じました。樋野先生のご講演にあった「がん哲学」という考え方にも共感しました。小学生がどのように生きるか考えるということは、身近な家族や地域の方、担任教師の姿などを通して影響を受けるものだと思います。それゆえに、現状ではすぐには難しいけれども、2年後にはすべての担任ががん教育の授業をできるようにしていくことが学校の役割だと強く感じました。この新しい取り組みが日本の教育界に浸透していくよう努力します。

文京区教育委員会 教育指導課 指導主事 山岸 健

panelist

「今後のがん教育推進について」

「がん教育の推進」については、がんに関する知識の普及啓発、いのちの大切さなど総合的に学習する機会を充実させることが重要であるとの考えのもと事業を進めております。がん教育の推進が学校教育において強く求められており、子どもたちの将来や豊かな生活に繋がる大切な事業であると改めて実感いたしました。さらに教師の取り組み姿勢や研修など、来年度貴学との事業提携に際し、大きな期待が溢れる会に参加できたことを感謝しております。各学校が子どもたちに対して、より一層いのちの大切さを伝えられる実践を通し、健康の増進に繋げてまいります。今後ともご協力の程、よろしく願いいたします。

順天堂大学大学院 スポーツ健康科学研究科 教授 長登 健

panelist

「がん教育を進めるにあたって」

シンポジウムは、私にとっても今後の取組について示唆をいただける貴重な機会となりました。樋野先生の話された、学び続けるための原点は、「新しいことにも、自分の知らないことにも、常に前向きに立ち向かっていくことである。」という言葉は大変印象深いものでした。8月に本学部で開催している中高保健体育教員の免許状更新講習会が、学び続けている教員の皆さんにとって、今後学校教育全体の中で「がん教育」を推進していくための一助となるよう、取り組んでいきたいと思っております。

順天堂大学大学院 スポーツ健康科学研究科 教授 采女 智津江

panelist

講演会「がん教育を進めるにあたって」について

最先端でがんの研究や医療に取り組んでいる大学や医療機関と教育委員会・学校等が、がん教育の基本的な在り方、進め方について協議する有意義な会でした。お互いの専門分野を尊重しつつ共通理解を深めながらカリキュラム開発や研究授業等に取り組まれていました。平成20年に学校保健法が改正され、新たに地域の医療機関等との連携が盛り込まれたことから、がん教育の取組が医療機関等との連携において具体的な方法を示す一助となり、学校における健康教育の充実が図られることを期待しています。

がんプロ連携FD研修会

盛岡地域交流センター(岩手県)

8/29(土)
8/30(日)
開催

岩手医科大学 医学部 緩和医療学科 特任教授 木村 祐輔

がんプロFDワークショップ(WS)が、連携大学中、最北の地である盛岡で、総勢40名の方々に参加をいただき8月29日～30日に開催されました。今回は『初・中等学校教育におけるがん教育過程のモデルの案出』をテーマに、がん教育を行う上で子供達に伝えるべき内容(スコープ)と、教育の過程と順序(シークエンス)を明確にすること、さらに実際の単元指導計画書(アクティブラーニング)の作成までを目指しました。



会の前半では、国際的な教育の現状を理解するために、OECDが進めるPISA(Program for International Student Assessment)と呼ばれる国際的な学習到達度に関するテストを演習形式で実際に体験し、各参加者が得た感想や意見をワールドカフェ方式によって全体共有しました。さらに、岩手医科大学の前沢教授より、「グローバルな視点からみた地域社会におけるがん教育のあり方」と題して、①PISAショック後の教育基本法の改定と学習指導要領の変革、②21世紀を生き抜くコンピテンシーを育てる授業デザイン、に関して詳細に講演して頂きました。

後半では、4グループに分かれ、講演頂いた内容を参考にしつつ、初・中等学校教育におけるがん教育過程のモデルと実際の指導内容の作成を行いました。各グループとも熱心に取り組んでいただき、“ペットの死を通して命を考える”や、“がんを題材とした演劇を子供自ら演じてもらうことで学びを深める”など、多くのユニークなアクティブラーニング法が提示されました。全体討論では、①『がん』を通して命の大切さを伝えること、②



成長段階に合わせて、生活習慣とがんの関連、予防法、検査法、治療法について理解を深めてもらうこと③学校関係者との良好なコミュニケーションのもとでがん教育を遂行すること等について意見の一致が得られました。今後のがん教育の方向性を考える貴重なWSであったと思います。ご参加いただいた全ての方々に心より感謝申し上げます。





報告

下記のとおり大盛況のうちに終了いたしました。ありがとうございました。

- **セミナー(鳥取大学)「鳥取大学医学部附属病院がんセミナー」**
講師：鳥取大学医学部附属病院 第一外科 齊藤 博昭 先生 他 2015年10月1日(木) 18:15～20:00
- **連携ICT特別講義(岩手医科大学)**
「こどもの、自らのがんを子どもにどう伝えるべきか? -CLS(チャイルド・ライフ・スペシャリスト)の役割を探る-」
講師：聖路加国際病院 チャイルド・ライフ・スペシャリスト 三浦 絵莉子 先生 他
2015年10月2日(金) 18:00～20:00 ICT接続により連携大学に配信
- **講演会(岩手医科大学)「肺癌個別化医療に求められる気管支鏡」**
講師：北海道大学病院内科I 品川 尚文 講師 2015年10月5日(月) 18:00～19:00 ICT接続により連携大学に配信
- **研究シンポジウム(順天堂大学)「進路の一つとしての海外留学～海外留学経験者の話を聞いてみよう!～」**
講師：MD Anderson Cancer center Assistant Professor 山口 浩史 先生 他
2015年10月14日(水) 13:00～16:00 ICT接続により連携大学に配信
- **公開講座(東京理科大学)「第31回 薬学講座」**
講師：埼玉県立がんセンター 緩和ケア科 余宮 きのみ 科長 他 2015年10月17日(土) 10:30～17:00
- **公開講座(明治薬科大学)「がん治療の新技術～中性子捕捉療法とドラッグデリバリーの応用～」**
講師：明治薬科大学寄附講座「がん先端治療学:アルファ粒子線・免疫治療学教室」柳衛 宏宣 教授 2015年10月17日(土) 13:00～14:30
- **講演会(順天堂大学)「がん教育を進めるにあたって」**
講師：順天堂大学 分子病理病態学講座 樋野 興夫 教授 他
2015年10月21日(水) 18:00～20:00 ICT接続により連携大学に配信
- **セミナー ～研究を楽しむためのセミナー 2015～「『Targeting Cancer Bone Metastatic Niche by microRNA』について」**
講師：テキサス大学 Southwestern Med Center(ダラス) Yihong Wan, Ph.D. 2015年11月13日(金) 8:00～9:00
- **国際シンポジウム(立教大学)「海外で活躍する医学物理士」**
講師：Turville Bay MRI&Radiation Oncology Center, Jessica Klaers, Ph.D. 他
2015年11月14日(土) 13:00～15:20 ICT接続により連携大学に配信
- **連携ICT特別講義(東京理科大学・順天堂大学)**
「日本医療研究開発機構(AMED)と創薬支援について～橋渡し研究、臨床研究・治験の環境整備を中心に～」
講師：国立研究開発法人 日本医療研究開発機構(AMED) 臨床研究・治験基盤事業部長 吉田 易範 先生
2015年12月2日(水) 18:30～20:00 ICT接続により連携大学に配信
- **地域シンポジウム(鳥根大学・鳥取大学)「がんプロ地域シンポジウム～地域におけるがん教育とがんプロ～」**
講師：鳥根大学医学部内科学講座 呼吸器・臨床腫瘍学 磯部 威 教授 他
2015年12月21日(月) 17:00～19:00 ICT接続により連携大学に配信

今後のスケジュール

詳細はHPに随時掲載します

- **ICT特別講義(鳥取大学、鳥根大学)「必要とされるコミュニケーションスキル スピリチュアルケアとディグニティセラピー」**
2016年1月8日(金) 18:30～20:00 鳥取大学医学部附属病院がんセンターキャンサーボード ICT接続により連携大学に配信
講師：筑波大学附属病院水戸地域医療教育センター・水戸協同病院 総合診療科 金井 貴夫 部長
- **講演会(明治薬科大学)**
 - ①「臨床薬剤師のがん薬物療法への貢献」2016年1月9日(土)
 - ②「血液疾患患者の骨髄移植における臨床薬剤師の関与」2016年1月12日(火)
講師：イリノイ大学薬剤部教員 Assistant Prof. Karen Sweiss 先生 他
- **シンポジウム(鳥根大学)「地域から首都圏、そしてアジアまで俯瞰する肺がん研究」 Update for lungcancer treatment**
2016年1月14日(木) 17:00～ 鳥根大学医学部附属病院みらい棟4階ギャラキシー ICT接続により連携大学に配信

編集後記

NHK 内藤裕子 アナウンサーの総合司会で、「順天堂大学がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン 先導的がん医療開発研究センター」主催のシンポジウム「がん教育を進めるにあたって」(順天堂大学に於いて)が開催された(2015年10月21日)。文京区の小学校の副校長、文京区教育委員会の教育指導課の主事も参画され、外部からも多くの参加者があり大盛況であった。筆者は基調講演「今後のがん教育の在り方」の機会が与えられた。2017年度以降「全国の小・中・高校で生徒への「がん教育」が実施され、教師による「がん授業」と、医師やがん経験者など外部講師による「がん教育」が、「車の両輪」として展開される」とのことである。

がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン「ICTと人で繋ぐがん医療維新プラン外部評価委員会」(順天堂大に於いて)が開催された(2015年11月13日)。総括責任者の学長の開会挨拶、「全体事業概要説明」、「教育分野」、「地域分野」、「研究分野」、「ICTと大学間連携事業」と、内容深い発表の後、垣添忠生 外部評価委員長(日本対がん協会 会長)、真島喜幸 委員(パンキャンジャパン 理事長)、高山智子 委員(国立がん研究センターがん対策情報センター がん情報提供研究部 部長)、石原浩 委員(文京区 保健衛生部部長/文京保健所長)の建設的な励ましの評価を頂いた。筆者は開会挨拶で「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」の目的と「純度の高い専門性と社会的包容力～車の両輪～」に付いて語った。

編集長・広報委員長 樋野 興夫

順天堂大学先導的がん医療開発研究センター 順天堂大学がん生涯教育センター

〒113-8421 東京都文京区本郷2-1-1 <http://ganpro-ict-plan.jp/index.html>

編集 順天堂大学大学院がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン 広報委員会

発行 順天堂大学大学院がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン